



SHIRANE

発行/社会福祉法人白根学園 発行責任者/三木 健太
住所/横浜市旭区白根7-10-6 TEL.045-951-2669 FAX.045-951-7773



Homepage



特集

能登半島地震
被災地応援
職員派遣報告

「令和6年度能登半島地震に係る応援職員派遣事業」活動報告

学園長：飯山 文子

能登半島全体マップ



2024年1月1日16:10 マグニチュード7.6 最大震度7を記録した「令和6年能登半島地震」で、白根学園の職員8名が、5月から11月にかけて能登での支援活動に参加してきましたので、ご報告致します。

「能登半島」と聞いて、大体の位置や形は思い浮かべられると思いますが、普段横浜や東京近辺で暮らしていると、その距離感、規模感は想像をはるかに超えます。参考までに、能登半島の地図を付けますので、ご覧ください。地図の下方、半島の左下の矢印が、金沢です。その右上、半島の右側の大きな湾の下が和倉温泉、その左上の矢印、半島の左上が輪島、その右横、和倉温泉の右上が能登町になります。例えば、金沢駅から活動拠点にした和倉温泉まで、片道70~80kmあります。電車で2時間かかりました。和倉温泉から実際に活動した輪島や能登町まではそれぞれ50~60kmあります。山間地や海沿いを通る片側1車線の国道が普段からの生活道路で、普通の道路状況でも車で数時間かかる距離ですが、和倉温泉あたりから先は、今回の地震で、陥没、隆起、土砂崩れ、家屋の倒壊が道路にはみ出しているなど、普通に道路を通れるような状態ではありませんでした。これは、残念ながら今もあまり大きく改善されてはいないようです。

| 応援の概要

今回の被災地支援は、一般社団法人・神奈川県知的障害施設団体連合会(以下、団体連合会)が実施した「令和6年度能登半島地震に係る応援職員派遣事業」によるもので、神奈川県内全体では20法人から81名が参加しました。毎週日曜日朝横浜出発、土曜日夕方横浜帰着、というサイクルで、途中夏休み期間と、どうしても人員が揃わなかった9月22日出発の隊(9/21の豪雨災害直後)を除き、5月12日出発の第1陣から11月9日帰着の22陣までの派遣がありました。

大規模災害では、福祉系の災害派遣にも色々な仕組みが構築されており、今回も発災直後から色々な形で動いていましたが、今回団体連合会では、東日本大震災の際の応援活動の経験から、今回も長期に渡る応援が必要になると考えていたこと、また、日本知的障害者福祉協会を通して現地から職員の応援派遣協力依頼の打診もあったことなどに加え、理事や役員の中に個人的に被災地にとっても親しい間柄の人がいて早くから現地の状況が入ってきていたこと等から、3月までの北陸地区の協会施設の活動を引き継ぐ形で、団体連合会として職員を派遣することに決めました。この派遣に際し、4月下旬に団体連合会の会長と防災対策委員長他、被災地の状況等に詳しい役員等計5名が、改めて現地へ赴き、関係機関の方々と活動内容、活動拠点、移動手段等の細かい調整と現地の状況確認をしてきました。

そして、原則1チーム4名で、活動内容は2名一組で、輪島での仮設住宅入居者への支援と、能登町にある社会福祉法人佛子園の運営する入所施設「日本海倶楽部」への支援。活動拠点は和倉温泉の知り合いの休業中のホテルの一室を半年間使わせていただく。移動手段として、これも個人的な伝手を頼りにレンタカーを半年間2台確保し、輪島組は毎日「車通勤」、日本海倶楽部組は施設に泊まり込み。活動最終日の金曜日に、能登組が和倉温泉に戻り輪島組と合流して、18時頃からZoomで日曜日に出発する隊のメンバーを含めて団体連合会の本部(会長と防災対策委員長他役員)と反省会と最新の情報共有。19時過ぎ活動終了、という枠組みを決めて、5月の連休明けの12日からの第1陣派遣開始となりました。





今回は、5月26日(日)～6月1日(土)まで、第3陣として日本海倶楽部で活動してきました。

日本海倶楽部は、関東地方ではまず想像できないような広大な土地に、入所定員50名の建物があり、グループホームのような居住用のコテージも点在。日中活動の場として、生活介護40名、就労継続B型40名があり、その一部には広大な農場があり、就労継続A型の活動拠点だと思うのですが、休業中のおしゃれなレストランや海に下りていける遊歩道のある公園、ビール工場などがあり、エミューやアルパカ、ポニーなど珍しい動物も飼育しているという、その全容は全くつかみきれない巨大なリゾート施設のようなところでした。

活動内容は入所施設での支援です。その時々で必要とされる部署で、必要とされる業務を指示され…と言ってもいつも指示してくれる人がいるわけではないので、自分で活動場所や活動内容などについて都度確認しながら、入所施設内で起きるありとあらゆることに対応していく、というのが活動内容でした。

例えば初日、午前中オリエンテーションを受けた後、棟内の清掃する活動班(利用者15名弱)に振られました。利用者と一緒に食堂掃除、テーブルや椅子の消毒、窓ふき。昼食は介助こそなかったものの、同じテーブルの就労継続B型か就労継続A型の利用者さんと思われる方たちとの「おしゃべり」とそこに集まってくる方たちのお話を聞きながら利用者同士でトラブルに発展しないような見守り。その合間に他の方の食後の歯磨き介助。午後、利用者さんは午前と同じメンバーで廊下や入所ユニット内の掃除や正面玄関ロビーの掃除と窓ふきと手すりの消毒。しかし、その場には、日曜日の夜に愛媛から到着し、月曜日の朝一番から活動をしていたボランティアの職員(私との経験の差は1時間半!)と私。消毒液の補充はどこに取りに行けば良いのか、汚れた雑巾はどこに片づけるのか、ごみの捨て方のルールはどうなっているのか、等々、誰かに聞きたくてもどこに職員がいるのかわからず右往左往。利用者さんが手招きして教えてくれることもありました。また作業をしながら、居室から出てこない利用者さんを迎えに行ったり、利用者さん同士のトラブルに介入したり、声をかけたりするのですが、どこまで声をかけて良いのか、普段からどのような関係性なのか全くわからずドキドキハラハラの連続でした。日中活動が終わると入浴介助と、入浴を終えた利用者さんへの水分補給。そして個別対応が必要な方と「夕食まで一緒に歩いて」と言われて室内を延々と1時間半近く歩き回りました。その後利用者さん達の夕食が始まったのを確認したところで、「夕食を適当に食べちゃってくださいね」と言われ、邪魔にならないように場所を見つけて夕食。19時過ぎに長かった1日が終了、という流れでした。

ちなみに初日の午前中のみ日本海倶楽部の職員が一緒でしたが、その後の日中活動はボランティアスタッフだけで対応しました。また日中活動時間以外の時間帯で、個別対応の必要な利用者さんへの対応を任されることが多かったので、1日目こそ際限なく室内を歩き回りましたが、2日目以降は外へ出ても大丈夫か、デコボコ道は歩いても大丈夫か、NG姿勢は何かを簡単に確認して(目も見えず耳もほぼ聞こえない方だったので)、自傷に至らないよう体をぴったり密着させてご本人のお気に入りの手触りのコップを持ちながら手をつないで(職員からの指示)、施設の周りを私自身の探検も兼ねて



本当に良く歩きました。

5日間日中活動場所の配置は変わっても基本はこのような形でずっと利用者さん支援に徹しました。驚き戸惑うこともありましたが、誤解を恐れずに言えば、とても楽しくて充実した活動でした。

因みに、輪島の支援に入るか日本海倶楽部での支援に入るかは、応募の状況と現地からのニーズを確認しながら、団体連合会の本部の調整によりました。

被災するとはどういうことなのか

今回の活動で、改めて大規模災害で被災するということを深く考えさせられました。私が白根学園で働くようになって2週間後、阪神大震災が起きました。以降日本で大きな地震や災害が起きるたびに、もし横浜で起こったら、白根学園ではどうするのか色々考えを巡らせ、災害についての研修会や訓練等に参加しては、あれこれシミュレーションなどをしてきたつもりでした。特に東日本大震災の後、被災地の方々や施設の方々と直接交流する機会が度々あり、かなりリアルに白根学園が災害で被災したら、ということを考えてきました。勿論、作成が義務付けられている事業継続計画(BCP)や防災マニュアル等々はきちんと整備しています。しかし、とりあえず形を整えて、現実はいずれ1週間から10日程度を臨機応変に何とか乗り切れれば徐々に日常生活に戻っていける、と単純に考えていた自分に気が付きました。大規模災害では最初の2~3日をまず乗り越えた後から、本当の意味での被災者としての生活が始まり、以降長く長く続いていくのだ、ということは今更ながら実感しました。



例えば生活を立て直していく第一歩である、住む場所一つとっても、引っ越すのか、修理をするのか、取り壊して建て直すのか、費用面はどうするのか等々、今後の生活の立て直しに向けて、方向性を決めていくために、「罹災証明書」が必要です。このような大規模災害ではその手続きをするために必要な家の状態を判断する行政の人が回ってきてくれるまでに、延々と順番を待たなければなりません。罹災証明書を発行してもらうために沢山の書類を準備して行政の窓口に行き、これも一度で終わるわけではないそうです。能登で被災した家々がそのままになっているのは、勿論人手や道路状況等の影響もあるのですが、罹災証明がちゃんと出るまでは手を付けられないという事情もあります。そして被災地の施設では、様々な事情で退職をせざるを得なくなった職員が多く、本当に苦しい職員配置で現場を回しており、日本海倶楽部もご多分に漏れず職員は激減していました。(その為、団体連合会で応援に入りました)その結果、職員は休みも取れず罹災証明をとるための役所とのやりとりもままならない状況でした。これらのことは、将来首都圏直下地震のような大規模災害が起きた時に、横浜でも起こり得ることだと想像できます。

日本海倶楽部の職員の多くは避難先から出勤していました。避難先は車庫やビニールハウス、倒壊してはいないけれど歪んだ家に応急処置をして使える部屋に集まって暮らす、などです。また、家族は金沢方面に避難し、一人残って車庫等で生活している人もいました。自宅にいても水道は復旧したけれど下水設備が傷んだままなので、排水ができず、結局殆ど水は使えないという状況にいる人は多いようでした。

日本海倶楽部の建物自体は一見、傷んでいるようには見えず、建物の前の芝生はきれいに刈り込まれ、畑は第1陣、第2陣の頑張りもあってきれいに作付けもされていたので、あまり被害を受けていないのではないかと感じてしまうほど、日本海倶楽部のある一帯は、普通におしゃれな佇まいでした。ただ、一歩中に足を踏み入ると、あちこち天井や壁が落ちて断熱材もはがれかけていたり、大きなガラスの窓や仕切りは割れたまま、ベニヤやブルーシートを養生テープで止めてあるだけだったり、サッシが歪んで閉まらない窓もありました。また、周りの生活道路沿いでは、崩れた家そのままあちこちにあり、傾いたりひしゃげたりした家々が、その集落の街並みの風景としてあり、業務終了後に団体連合会で一緒に行ったメンバーと車を走らせて見てきた、珠洲市や、施設のすぐ下にあるしろまる地区の壊滅的な被災状況には言葉が出ませんでした。このようなあちこち壊れたままの状態だったり、ゆがんだ形の家々の景色の中で日々暮らしていると、本人は気が付かないうちに心を蝕まれていくのではないかと心配になりました。

そのようなプライベートでも職場でも精神衛生上あまり好ましくない生活環境であるうえに、人手不足で休むに休めない状況に置かれ心も体も休まらない中で、各地からボランティアが入れ代わり立ち代わり沢山来て、その受け入れと調整もしなければなりません。ボランティアは各ボランティアの都合で出たり入ったりするので、特に受け入れ時の対応が大変そうなのは、すぐに理解できました。でもそのボランティアが来てくれないことには、自分の手続きどころか、肝心の利用者支援もままならないのです。日本海倶楽部の職員は、本当は自分



たちが一番に利用者に寄り添ってほしいはずなのに、それらを生活習慣も文化も価値観も全く違う人たちに委ねるための対応を際限なく迫られるというジレンマの中にも思え、それでも私たち外部の人間に利用者支援業務を任せてくれました。日本海倶楽部の利用者さんや職員の価値観や文化をどこまで理解して手伝えたのか、周りを見ながら私の当たり前を無意識に、気が付かずに押し付けてしまっていなかったか、今でも少し不安に思い出します。私たちが被災者として大勢のボランティアを受け入れる側に立った時、心広くありたいと思っています。

日本海倶楽部の皆さんから教えて頂いたこと

今回1週間という短い期間ではありましたが数十年ぶりに施設に住みこみ、直接触れ合った日本海倶楽部の利用者職員の皆さんからは、本当に多くのことを教えて頂きました。横浜に帰ってきて真っ先に法人内の会議で伝えたことは、日常業務の中での地道な人材育成は重要であるということでした。何故なら平時にやっていないこと、できないことを、非常時にできるわけがありません。普段、施設職員としての役割を果たせていなければ、非常時にも職員としての働きは期待できません。災害時、施設職員が手薄になるからこそ全国各地からボランティアに助けてもらわなければならない訳ですが、実際にボランティアが到着したとき、どういう立場の職員が勤務できているかは分かりません。勤務についている職員がその時々でボランティア受け入れ時のオリエンテーションができるようになっていないと、一部の職員に大変な負担がかかって行くようになってしまいます。普段からその時々で、与えられた自分のすべきことをしっかり見極めて、周囲と協力しながら必要と役割に応じた行動ができるようになることを目指して、色々な側面から育成していけば、非常時のボランティア受け入れを含めた施設内業務はスムーズに進めることができると思います。また、人材育成の一環で、普段から、整理整頓を心掛け、物の置き場所が誰にでもわかるような環境づくりや、使ったものはあるべき場所にきちんと戻す習慣等を皆で身につけていくような取り組みは、利用者にとっても安心安全な環境づくりにつながり、一緒に生活する人たちのストレス軽減にも役立ち、そのような職員集団の力は、非常時には施設の落ち着きを取り戻すことにもつながっていくと気が付きました。



これまで、私にとっての人材育成は、一人一人が成長することは勿論ですが、いかに組織としての支援の質の底上げやチームワーク力の底上げにつながられるか、という観点から取り組むものでした。今回、災害対策の一環としても人材育成は意味がある、という側面に気づきました。

おわりに

今回白根学園では私以外に7名の職員が応援派遣で活動してきました。ただでさえ、各事業所では人手不足の中、施設長をはじめ事業所の職員の皆さん、気持ちよく送り出して下さってありがとうございました。この他にも希望していた職員がいたと聞いていますが、シフトの関係でどうしても派遣は厳しかったとのことです。実際に行けなかったとしても、ボランティアに行ってみたいと思ってくれた職員が思いの外沢山いてくれて、とても嬉しかったです。私自身については、法人の会議を一つ延期、一つは欠席になりましたが、1週間留守にさせていただき、本当にありがとうございました。



もうすぐ発災から1年になります。相変わらず大きな地震が続き、9月には尋常でない豪雨に見舞われ、復興の足取りは重いです。能登地方の日常と様々な産業や伝統が少しでも早く取り戻せることを心から祈っています。そして寄り添い続けることを行動で示すとはどのようにしたらよいのか考え続け、一つずつでも実践していこうと思っています。

これまでより少しリアルに能登半島のことを身近に感じてもらえるように、能登地方の大きな地図を付けますので、じっくりと見て、能登半島の大きさや有名な観光地などを地図上で探してみてください。

災害派遣時期 令和6年5月19日(日)～5月25日(土)

災害派遣場所 石川県能登町 日本海倶楽部(障害者支援施設)



神奈川県知的障害施設団体連合会(以下、団体連合会)からの要請で、令和6年5月19日～25日の7日間の間、社会福祉法人佛子園(ぶっしえん)日本海倶楽部へ行ってまいりました。隊としては第2陣となり、私を含め計4名での活動でした。能登半島地震発生(令和6年1月1日16時10分)である年明けの時にはテレビやネットでも被害情報で溢れていましたが、この派遣の5月頃にはあまり現地の情報などは入らなくなっており、先遣隊調査の資料やネットに残っている情報を調べつつの道中であったのを覚えております。

初日宿泊予定の和倉温泉「のと楽」が近づくにつれ、閑散とした街並みや道路の亀裂、建物の損害が目視できるようになり、被災地に足を運んだということを実感しました。「のと楽」も被害を受け営業停止中であり、フロントの傾きや亀裂、15階にある露天風呂も亀裂で大変であったとのことをお話をされておりました。

この日は皆で英気を養い、翌早朝に団体連合会が用意してくださった車両で出発をします。道中、道の駅穴水付近にて燈籠の倒れも見られ、日本海倶楽部が近づくるとテレビやネットで見っていた光景が次々と目に入ってきます。倒壊した家屋、亀裂で段差のある道路状況が至る所にあり、注意喚起の三角コーンなどの標識が数多く見られました。日本海倶楽部では職員や利用者の皆様は大きな怪もなくおられたとのことでしたが、地震発生時は車両で寝泊まりや、日本海倶楽部周辺の海に面した下町(現地での呼び方)は、津波によりひどい被災状況とお聞きし、後日足を運ぶと倒壊の家屋が複数ある痛々しい様でありました。



施設では初日こそ案内、説明や掃除のお手伝いでしたが、主には日本海倶楽部ザ・ファームでの畑作業に参加をしました。ちょうどテレビ東京のカンブリア宮殿の撮影が入るとのことであり、実習に来られていた石川大学の学生と一緒に、さつまいもの苗の植えや水やり、石灰の撒き、黒マルチシートの張りの作業を行い撮影されました。本格的な農作業を実施しており、広大なさつまいも畑の他、ぶどう畑(ピオーネ、安芸クイーン)、牧草の刈取り、梱包、羊の飼育と「農福連携」を大規模に取り入れていました。

ザ・ファームでは2017年から羊の飼育を作業に取り入れて進めています。石川県立大などのグループが障害者施設の利用者さんに羊を飼育してもらい、効果を検証する研究を進めているとのこと、利用者さんはアニマルセラピーによって働く意欲が高まる一方、羊にも特段のストレスがかからないなど、効果が確認されているとのことでした。利用者さんへの効果としては、餌やりなどの作業をした場合と、シュレッダーなどの紙作業や他の作業療法をした場合を比べた結果、餌やりの方で脳内血流量の活性化が見られたとのことでした。

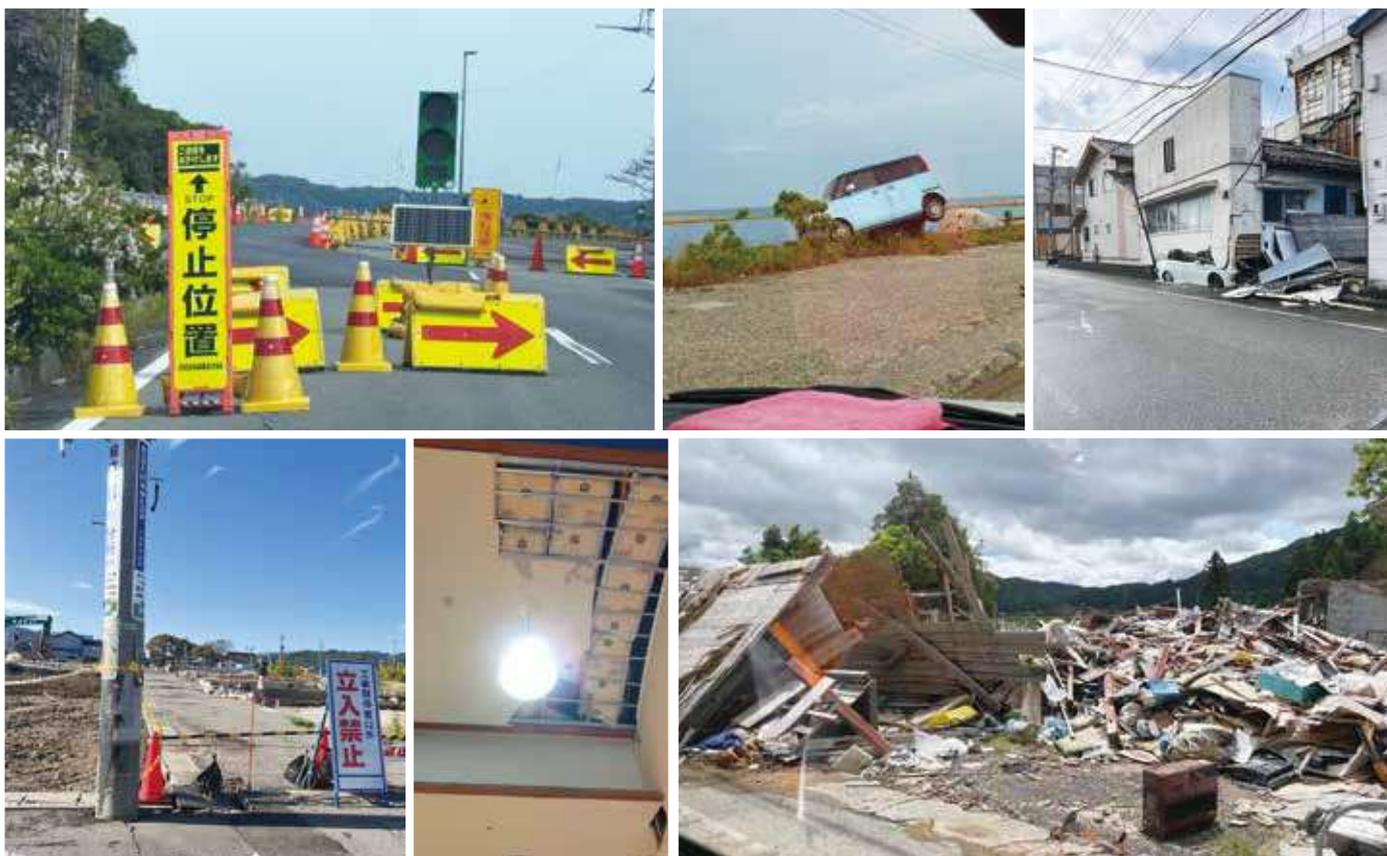
また、なぜ「羊」なのかというと、羊は牛や馬などに比べて小さく、飼育する際の危険が少ないほか、育てれば国産のラム肉や羊毛になり、近年の健康ブームからも需要が見込めることで着目したといえます。「農福連携」は障害者が農業分野で自信や生きがいをもって社会参画し、労働力の確保にもつなげる取り組みと聞きます。事実、ザ・ファームでも職員は風や天候からその日の作業の組み立ても行ったりするのでとても忙しく、度々来る災害派遣の我々の教えにまで手が回らない状況であるともお聞きしました。

こんな思いの中、私たちに作業を教えてくれたのがベテラン利用者の方でした。自分の仕事に自信を持ち、実際のパフォーマンスも高く、なにより主体性を発揮して他者を巻き込む力を感じました。福祉では「自己肯定感」という言葉をよく耳にしますが、この方の主体性や失敗やリスクを恐れない気持ち、周囲の理解というのは、古き良き時代を思い出させてくれました。紙切りや自立課題で、これほどの自己肯定感の育てができるのかどうか、自分たちの歩みを立ち返ってみる必要があるのではないのでしょうか。

2〜3日経った頃、同じ被災地支援で来られていた方から「珠洲市」のお話を聞きました。能登半島の先端にある市であり、被災状況が一番深刻だとのお話しでした。北陸新聞にも家々の倒壊の現状や市内唯一のショッピングセンター「シーサイド」が津波の影響で営業を休止していたのだが、自己破産申請の準備に入ったとの記事があがってありました。倒壊だけでなく、こういったライフラインの社会インフラがなくなっていくことも人が住めなくなっていく地域になる要因であるとも感じました。

珠洲市の状況は悲惨なもので、打ち上げられた船、倒壊だらけの街並み、人の声が聞こえない街の中を車で通りながら思いを馳せておりました。この珠洲市にも「進まぬ復興」という大きな問題があります。この復興が進まない一番の理由としては「公費解体」の問題があるとのことでした。自治体が費用を負担する公費解体は半壊以上が対象になり、一部損壊やゆがみ、ねじれ、屋根瓦が崩れるなどは対象にならず、でもそんな状況では雨水も入るし結局は住めないというものでした。また、人が離れ続ける街では解体業者も仕事にならないと能登半島を離れていくとのこと追いかけて打ちをかけているとのことでした。復興どころか自分の家の復旧すらままならない状況に、現地の方の失心ややり場のない怒りを痛切に感じています。

今回の派遣では、メディアからの情報ではないリアルな現場を見て触れることができました。インフラの整備や産業の復興に見通しが立たない中、今年5月の時点では能登半島地震における建物倒壊などによる直接死と災害関連死を合わせて260名を超えたとのことでありました。一部損壊でも半壊でも人は住めません。社会インフラが復旧しなければ人は戻ってきません。国の大きな介入がなければ復興を冠したこういった支援も水の泡になってしまうのではないのでしょうか。能登の復興を心から願っています。



災害派遣時期 令和6年5月12日(日)～5月18日(土)

災害派遣場所 石川県能登町 日本海倶楽部(障害者支援施設)



まず初めに能登半島震災で大変な被害にあわれた方々にお悔やみ申し上げます。

能登には大変思い入れがあり、一昨年の夏に家族で能登へ旅行に行き、大変感銘を受けました。活気溢れる輪島の朝市、海に面した丘の斜面に広がる美しい白米千枚田、海沿いに広がる街並みの綺麗さ・・・家族全員で大変良い時間を過ごすことが出来ました。またいつか能登に行きたいと思って日々過ごしていましたが、元旦に能登で震災が起きてしまいました。震災後は私に何か出来ることはないかと考えていた矢先に能登半島復興支援の話が来たので真っ先に申請を出しました。

復興支援で私は第一陣ということもあって多少の不安はありましたが、神奈川県知的障害施設団体連合会の方の現地下見や事前準備があったお陰で、不安や心配は次第に無くなりました。また、派遣先の日本海倶楽部では障害者施設の支援を行う内容で、現在入所施設に配属されている私にとってはやるべきことは同じだったため、違和感なく復興支援の現場に入る事が出来ました。

派遣期間の初日と最終日は和倉温泉街にある旅館「のと楽」での宿泊ですが、のと楽から日本海倶楽部まで片道1時間半かかるため、支援期間の5日は日本海倶楽部に宿泊して支援を行ないました。日本海倶楽部は高台にあったため津波や火災の被害は無く、地震の揺れによる壁や天井の一部が落ちるなどの被害で、入所されている方の生活が大きく変わることなく暮らすことが出来ていました。ただ、日本海倶楽部の職員から震災後に退職した職員が多く、人員不足で業務が滞っている状況にあると話を伺いました。

支援内容としては、日中活動や入浴介助、看護補助業務(書類整理等)でした。日中活動では活動班の一つに農業があり、時期的に繁忙期でさつま芋の苗植え100万本、畑耕し、ぶどう畑のビニールシート張り、雑草刈りなどを行いました。利用者さんと一緒に仕事をしつつも、職員が率先してやらないと仕事が終わらないといった感じでした。入浴はボランティアの方と2人で介助を行い、16時から順次30名ほどの方が利用されていました。その他に利用者さんの居室や活動室の掃除、書類整理、看護が行う雑務などが仕事としてありました。人手不足のためこういった事も手が回らない状況なのだと痛感しました。今回の復興支援では、働く環境を整えること、農業の繁忙期で集中して農作業を行う事でした。直接利用者さんと関わる場面は少なかったですが、入浴支援や利用者さんと同じ棟での宿泊を通じて交流を深める事ができました。

能登復興の現状(5月時点)は震災から5か月経過しても僅かしか進んでいないことに愕然としました。しかし、日本海倶楽部の職員と話をしている内にこの人達ならばきっと大丈夫だという確信を持ちました。それは能登に住む方々の気質として、「優しくて明るくて活発」が特徴であることが分かりました。以前、家族で訪れた時に感じた心地良さの理由が分かりました。

日本海倶楽部の法人である佛子園全体で復興支援商品が出されていることも被災に負けないといった気持ちが表れていると思います。また、この商品の良い所はロゴデザインが素晴らしく、惹かれるものとなっており、商品にセンスも感じられました。

今回の復興支援は短い支援期間ではありましたが、次に続いていく復興支援の各陣の方たちにも現地の情報を引き継ぐことが出来ました。しかし、復興にはまだまだ程遠いため、自分には何が出来るのだろうかと引き続き模索していきたいです。

いつかきっと家族でまた能登を訪れることが出来る日を楽しみにしております。

災害派遣報告 3

しらねの里・げんき：小原 麻美子

災害派遣時期 令和6年6月2日(日)～6月8日(土)

災害派遣場所 石川県能登町 日本海倶楽部(障害者支援施設)



今回、社会福祉法人佛子園(ぶっしえん)の日本海倶楽部という障害者支援施設にて生活支援ボランティアに入りました。支援内容としては、個別支援が必要な方の同行支援と環境整備にて利用者さんと共に花壇や施設周辺の草刈り、食事介助、洗濯等の生活支援全般の補助をしてきました。

日本海倶楽部職員からお話を聞いたところ、今回の震災にて10名近くの職員が離職され各県からボランティアに依頼し支援を行っているという事です。

始め和倉温泉地のホテルから現地に移動し、週末まで現地滞在で支援にあたりました。途中、穴水町を通り能登町にある施設まで移動しましたが家屋は半壊・全壊が多くありました。重機で解体作業をしている場面も見ることができましたが、まだまだ追いついていない現状でした。車で移動の際も高速道路は復旧しておらず、海沿いの道を移動しましたが道路も隆起しており崖崩れで片道半分になっているところもありました。



派遣先へ移動を開始する日の朝、震度5強の地震があり、驚きと恐怖を覚えました。携帯電話から警報音がなりすぐに揺れたのですがその1回のみで終わりホッとしたのと同時に被災者はもっと怖い思いをされているのかと実感しました。

津波があった地区もあり、日本海倶楽部の傍にある海沿いの白丸地区(しろまるちく)には5m近くの津波がきたとのこと。実際に見に行き、その巨大な津波の爪痕が生々しく絶句してしまいました。その中で、白丸地区の高台に仮設住宅がありました。ふと、今まで住んでいた場所から離れられない人の気持ちを思い浮かべました。

又、施設職員さんに後から聞いた話では、その方のご自宅を解体するまでに、半年待ちとのこと。やっと順番が回ってきたと話をされていました。ほとんど、復興が進んでいないと感じました。

町の状況は、主要道路は応急的に直しており移動が困難というのは無かったのですが、本当に必要最低限の所だけでヒビ割れ・隆起している場所が多々あります。崖崩れ・半壊全壊家屋もあり、本部からはあまり近くに寄らず、立ち止まらずの指示もありました。そういった中で、生活を半年以上されている被災者がいます。

自分が思った必要物資や必要人員についてですが、物資に関しては、現状は足りているように感じました。近くにあるスーパー等の品ぞろえは良く、必要な物は賄えました。物流に関しては復興されている感じは受けています。ただ、施設の必要人員はまだまだ足りていないと感じられました。

職員さんからも、9月までの派遣は決まっているがその後の話は現時点では不明であり継続してボランティアさんは必要であるとのこと。ただ、派遣に出すにあたって派遣職員の職場環境があります。人が足りず、出したいくても出せない状況もあるようですが、今後も継続支援ができる環境作りが必要ではないかと思っています。

個人の感想として、今回、派遣に行かせていただきとても感謝しております。実際に地に足をつけて見てみないと分からないことは沢山あります。又、一人の力は微力でもまとまれば大きな力になります。私自身も現地に行った事で、何が出来るか・できる事は何かを考える機会となりました。今後、直接的な支援はできなくとも何かしらの形で能登を応援していきたいです。

最後に、能登には合言葉があります。「NOTO, NOT ALONE」(能登はひとりじゃない)

皆さんも、何かしらの形で能登を思い浮かべて頂ければと思います。

災害派遣時期 令和6年5月26日(日)～6月1日(土)

災害派遣場所 石川県輪島市 公益社団法人青年海外協力協会JOCA(仮設住宅支援)



令和6年1月1日に発生した能登半島地震への復興支援で、神奈川県知的障害施設団体連合会からの要請第3陣で参加してきました。期間は7日間で、土曜、日曜は移動のみ、平日は現地での業務となりました。

配属先は公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)となり、輪島市内の復興支援に携わりました。

私の携わった復興支援は仮設住宅支援として孤立世帯や災害関連死の防止、各仮設住宅入居者への聞き取りを行いました。

派遣当時、石川県輪島市はまだ復興があまり進んでいない状況でした。倒壊した建物はほとんどが手つかずで、その瓦礫が道まで出ている状態。歩道も亀裂やくぼみが出来ており、夜間の歩行時は懐中電灯が必須でした。道路には亀裂や段差もありましたが、輪島市から出ると道路の舗装も進んでおり、車も安全に走っていました。ただ、土砂崩れが起きた場所は現在も土砂の撤去は済んでおらず、警報機が設置されており、地元の方より雨や地震があると崩れるか不安との声も聞かれました。また、路面沈下や土砂による交通規制も数ヶ所あり、地元の方は遠回りをして買い物に出掛けなければならない地域もありました。仮設住宅を回る移動スーパーもあり、利用される方も多く見受けられました。

聞き取り時の仮設住宅入居者さんも震災当時のお話を涙ながらに伝えて下さる方や、復興が進んでいない不安やストレスなど、たくさんのお話をお伺いすることができました。

また、5月28日(火)に門前町にある仮設住宅で高齢者単身入居の方が亡くなった(孤独死)とニュースや新聞にて掲載がありました。

震災当時の状況では、「地震発生中は立っていられず頭を守ることに必死だった。」「自宅周辺は倒壊している家が多く、集落だったから近所の親族や友達の安否を確認した。」「まだ自宅は倒壊していなかったから貴重品を取りに家へ戻ったがその後すぐに自宅が倒壊した。」などのお話も伺うことができ、ニュースで観る被災地と目の当たりにした被災状況にギャップを感じ、直接お話を伺い改めて悲惨な現実を知り得る事ができました。

逆断層運動により海は隆起(りゅうき)し、漁業等への影響も出ていると伺いました。有名な観光地「千枚田」でも隆起していました。隆起した場所は多く、一度隆起した所は元には戻らないと現地の方はお話をされていました。

門前町の仮設住宅は学校内の敷地にあり、とても活気のある地域で仮設住宅の入居者も棟ごとに被災前の隣住宅でまとめられており、仮設住宅でのご近所付き合いも多いように見受けられました。日頃からの地域交流の重要性を強く感じられました。門前町の方も地域交流を意識されており、コミュニティーを広げている様子でした。

公民館の敷地を使用した仮設住宅では、館長さんも仮設住宅での地域活性化を進めており、公民館の敷地で夏まつりの予定の立案、公民館へ外部から草鞋(わらじ)作り職人を招待したり、入居者さん同士で玄関用カーテン作りを企画したりと、物作りを通じた地域交流を行っていました。そのようなイベントを行うにも人員は必要な為、イベントへの参加や準備設営等の協力をを行い、地域との関わりが重要と思いました。

私たちが地域で震災が起きた場合、利用者の生活を守ることはもちろんですが、地域を活気づける役割も白根学園として担えるのではないかと考えさせられました。

また、地域内での孤立者を無くす為には、一人ひとりの関わりがとても重要であり、毎日の挨拶や地域交流の場は普段から大切にしなければならないと、改めて感じました。

災害派遣時期 令和6年10月27日(日)～11月2日(土)

災害派遣場所 石川県輪島市 公益社団法人青年海外協力協会JOCA(仮設住宅支援)



私の派遣先は、輪島市中心部にある公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)のベースキャンプでした。倒壊を免れた建物を拠点とし、中心部とはいえ倒壊した建物やひび割れた道路も多く宿泊施設もないに等しいため、ここで市内全域の仮設住宅のモニタリングやアセスメント業務を行っていました。

神奈川県からの応援派遣22陣のうち、21陣目での参加でした。震災による災害対策として応募を決めてから、現地は豪雨によりさらなる被害に見舞われていたことで、ベースキャンプへの運転や生活環境に不安を感じながら始まりました。

ベースキャンプ到着後、JOCA職員主導で仮設住宅の行き先の地域と割り振りが決まり、聞き取りは二人一組で行います。タブレットを使用して支援が必要な人の基本情報や訪問記録から情報収集し、現場にて聞き取りします。仮設住宅は1棟6～9軒で、多い日は20軒以上回る事もありました。住人の中には、1時間ほど傾聴することで気持ちがスッキリする方もいらっしゃいました。

戻れる距離であればベースキャンプに戻り、遠方であれば現地にて休憩を取って午後に続きます。天候や道路事情を含め聞き取りが一部未完了であっても、街灯が少なく安全を確保できないことからベースキャンプへの戻り時間はある程度決まっており、戻り次第訪問記録をタブレット等で打ち込んで情報を共有していきます。

聞き取り以外の業務も行いました。その一つがフードバンクからの食材受け取りという業務です。フードバンクという事業団体が支援者から送られてきた食材を把握し、JOCAを含めた各支援団体が受け取りに行き、仮設住宅や避難所に振り分けていきます。

他にも、9月の豪雨によって浸水した仮設住宅を消毒するため、一旦退去して頂く「引越支援」の業務がありました。引越としてのメイン業務は「梱包」「運び出し」で、支援を効率良くこなすことではありませんでした。震災で家族や家財、思い出など色々失ってどうにか生活を立て直そうと始めた新拠点から一度避難所に戻って頂くことになり、しかも短期間での引越となるため不安や苛立ちも強く、やはりここでも大切なのは「住民の方のお話を傾聴する」ことでした。

最も印象に残ったことは、この引越支援の最中のごみ捨てにありました。JOCAに長期参加していたボランティアが、「ゴミ捨て場が気になる」との【気付き】から一緒にゴミ捨ての場のゴミを分別したことです。その後住民の方が気をつけてゴミを捨てていく姿がみられました。住民の方にとっては、ゴミの出し方一つとっても、不安や苛立ちが残る原因にもなり、逆に気持ちが和らぐ可能性にも繋がっていると改めて実感しました。

1週間の活動を通して復興が思う様に進んでいない現状も目の当たりにしました。住民の方も仰っていたことですが、ガソリンスタンドやコンビニなどの店舗がないと復興拠点が置けず、輪島市内の宿泊施設不足のために遠方から毎日移動してくる事となり、作業時間が限られてしまいます。他にも幹線道路の一部が山間部のような場所で修復中だったり片側通行だったり、バスの通行にはまだ適さないため特に高齢の方は輪島市内の移動すら難しいという状況など、多くの課題も確認出来ました。

今回の復興支援を通して「傾聴」の大切さを改めて実感しました。傾聴して自助・公助・共助に繋げていくことは社会福祉の根幹ですし、施設での保護者さんとのカンファレンス、利用者さんとのコミュニケーション、地域共生といった全てに繋がっていると強く感じました。



災害派遣時期 令和6年10月13日(日)～10月19日(土)

災害派遣場所 石川県能登町 日本海倶楽部(障害者支援施設)



七尾駅を越えたあたりから、ちらほらと瓦の剥がれた家々を目の当たりにしました。テレビの中や新聞等のメディアでしか触れることが出来なかった現実を、実際に目で見て自然と気が引き締められました。また穴水から珠洲町の海岸近辺の建物は、地震の被害はもちろん、津波の被害も沢山受けていました。壊れかけた無人の家が、災害の悲惨さを物語っているようでした。住めなくなった家々は解体すると聞きましたが、現状進んでいない様子でした。

そのような状況の中、今回は日本海倶楽部に応援で入りました。移動時間を抜くと、4日間という短い時間ではありましたが、とても貴重な体験をする事ができました。同施設はもともと重度障害者を対象とする児童施設や更生施設が中心であった社会福祉法人佛子園(ぶっしえん)が、初めて取り組む本格的な授産施設として1998年5月にスタートしています。入所は現状約50名、通所の方が約30名在席されている、一見リゾート施設のような素敵な場所でした。

建物内には、災害の爪痕が多く存在していました。1月の大地震が落ち着いてから改修工事を行い、直した箇所も6月の大地震でそれ以上にダメージを受けたそうです。11月に、再度改修工事を行うとのことでした。

実際に災害に直接遭われた方から、自宅のローンを返し終わってすぐに災害に遭い、家が全壊してしまった方のお話を聞くことが出来ました。災害の恐さを改めて痛感しました。

日本海倶楽部の職員の方々は皆さんとても親切な方ばかりでしたが、災害を乗り越えて来られたその表情からは、疲れが滲み出ている様子が伺えました。応援者として、被災地の方々の負担にならないよう、今出来ること・やれることを探し支援にあたりました。日本海倶楽部の作業種は、レストラン・ファーム・環境整備・清掃班からなっており、その中の清掃班を手伝いました。支援は普段行っているものと変わらず、すぐに利用者の方々とも打ち解ける事が出来ました。

給食は3食とも自施設で提供しており、週2回は選択食(6食の中から選べます)があり、皆さん本当に楽しみにされていました。災害前は12食の中から選ぶ事が出来、且つ毎日選択食を行っていたとのことに非常に驚きました。食事をとても重視されており、その姿勢に感服しました。

栄養士から、「出来ないことを見つけるのではなく、出来る事・やれることを探して、今に至っています」という話を聞きました。言葉でいうことは簡単ですが、実際に実践されている事に非常に感銘を受けました。

復興支援に協力した事で、可能であれば派遣人員は多い方が良いと感じたことと、さらに継続して応援派遣が出来れば良いと思いました。日本海倶楽部の方々の疲弊された表情を目のあたりにし、少しでも被災された方々の休める時間を確保していく必要性を強く感じました。

地球の総面積の1パーセントも満たない日本で、地球で起こっている地震の10パーセントの地震が起こっているそうです。もし私達の地域で同じような地震が起こった場合、我々はどう行動し、どう対応していくべきなのでしょう。能登で起こった地震を他人事と捉えずに、私達の地域で地震が起こる可能性も十分考慮するべきであると、改めて思いました。我々が出来ることは、まず備えることではないかと思えます。地震等に備える訓練もそうですが、地震が起こった時に助け合えるように日頃からのコミュニケーションを取る必要性を強く感じました。

日本海倶楽部の栄養士の方が仰っていた「出来ないことを見つけるのではなく、出来る事・やれることを探す」というこの言葉に、改めてフォーカスすることの重要性を強く感じ、支援の中でも活かしていきたいと思えます。

災害派遣時期 令和6年10月20日(日)～10月26日(土)

災害派遣場所 石川県能登町 日本海倶楽部(障害者支援施設)



私は第20陣(10月20～26日)として石川県能登町の障害者支援施設日本海倶楽部で支援にあたりました。施設の周りにも民家は少なかったですが車で10分程移動すると海岸線に出ることができ、そこには住居が多数ありました。地震、津波、又火災が発生したことによる跡を自身の目で確認してきました。



一緒に派遣された支援者と出掛けた際、使用していた車両が「わ」ナンバーであったことから男性の方から声を掛けられました。その男性の話では、「地震発生後は東日本大震災のこともあり、住民の多くはすぐ日本海倶楽部に避難をした。地震後の火災が大きくて日本海倶楽部から火が見える程だったのを憶えている。海岸線が湾曲になっていることから津波の被害もムラがあり、海岸近くの住宅でも被害状況に差が出ている。地震による倒壊で亡くなってしまった人もいる。作業車がなかなか入れない狭い道ということもあり、解体や撤去は進まない。今年は厳冬も予想されるし、地盤の状態から除雪車も入れないのは不安なところ…。皆で協力しながら、励ましながら生活はしているし、前向きにいこうと思う。」と仰っていました。

日本海倶楽部では、主に日中活動の支援に入りました。施設の敷地が広い為、農作業や環境整備も利用者さんの活動の一つとなっています。私は環境整備活動に配置されることが比較的多かったですがその活動の中で敷地を綺麗に整備し、気持ち良い生活ができるように利用者さんも支援者も協力しながら取り組んでいました。

ボランティア一人ひとりにその日の予定や配置が設定されており、利用者さんの個別対応を行う時間もありました。派遣3日目以降は一人で活動場を任されることも(途中で現地の職員さんは様子を見にくる)あり緊張しましたが、利用者さんが教えてくれたので助けられました。

現地で感じたことは、地震による影響が施設内にも所々ある状態で、利用者の皆さんの表情が良く、元気に生活していた事です。又、ボランティアの受け入れに利用者さんも慣れていいのか「どこから来たの?」「来週は誰が来るのかな?」「分からないことは聞いてよ。」等の言葉が聞かれ驚いたのを憶えています。

日本海倶楽部の職員からは、「震災前は閉鎖的で利用者さんと職員、業者や保護者といった出入りが主であったが震災後からはボランティアも含め地域との関りが多くなった。利用者さんには良い影響もあり、様々な人と



の関りから引きこもりがちであった利用者さんが活動に参加できるようになったり、話すのが苦手だった利用者さんが表情良く会話できるようになったりといった様子が見られた。」という話が印象的でした。

5日間という短い期間ではありましたが最終日の宿泊ホテルに帰る際、利用者さん・職員さんが見送りに来てくれました。この貴重な体験と経験を事業所で活かしていければと思います。

能登地域の復興状況について

2024年12月6日時点の能登半島のイベント・観光情報をお知らせします。

(参照HP:石川県観光公式サイト「ほっと石川旅ネット」)

市町	ジャンル	祭り名称	開催日
七尾市	イベント	企画展「水族館大解剖展」	1月1日(水・祝)～3月9日(日)
羽咋市	祭礼	ついでち結び	毎月1日
羽咋市	祭礼	鶴祭	12月16日
羽咋市	祭礼	寒水荒行	1月1日(水・祝)～1月2日(木)
羽咋市	イベント	のどぐる祭り	2月
羽咋市	祭礼	ついでち結び	2月1日(土)
かほく市	イベント	西田幾多郎哲学講座⑧ エマニエル・レヴィナス入門	12月7日(土)
かほく市	イベント	かほく四季まつり～冬の味くらべ あったか雑炊・鍋まつり～	1月18日(土)～2月16日(日)
かほく市	イベント	MUFG SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2024-25	1月25日(土)、26日(日)
志賀町	イベント	旧福浦灯台ライトアップ(冬季)	12月2日(月)～2月28日(金)
志賀町	イベント	機具岩ライトアップ(冬季)	12月2日(月)～2月28日(金)
中能登町	イベント	碁石ヶ峰初日の出を拝む集い	1月1日(水・祝)
能登町	イベント	寒ぶりまつり2025	1月19日(日)
能登町	祭礼	あまめはぎ	2月3日(月)

市町	施設種別	施設名称	営業日
七尾市	道の駅	道の駅能登食祭市場	月、水、木、金、土、日
七尾市	道の駅	道の駅のとじま	休業中
七尾市	公共交通	のと鉄道	—
七尾市	観光施設	能登島ガラス工房	月～日(年末年始休業)
七尾市	観光施設	のとじま水族館	月～日
七尾市	観光施設	のと里山里海ミュージアム	月、水～日(年末年始休業)
七尾市	道の駅	道の駅 いおり	月～水、金～日(年末年始休業)
七尾市	仮設商店街	七尾市仮設商店街(一本杉通り)	店舗により異なる
七尾市	観光施設	花嫁のれん館	月～日(年末年始休業)
七尾市	観光施設	能登島ガラス美術館	月～日(第3火曜日(祝日の場合、その翌日が休業) 展示替え期間・館内整備期間、年末年始休業
七尾市	道の駅	道の駅 なかじまロマン峠	火～日(月曜日、1/1休業)
輪島市	道の駅	道の駅のと里山空港	月～日(年中無休)
輪島市	観光施設	能登空港仮設飲食店街NOTOMORI	店舗によって異なる 詳細はHPから
輪島市	道の駅	道の駅 赤神	月、水～日(火曜日休業)
輪島市	道の駅	道の駅 千枚田ポケットパーク	休業中
輪島市	道の駅	道の駅 輪島(ふらっと訪夢)	※大雨の影響により、店舗によって営業状況に変更がある場合があります。 【わじま観光案内センター】 月～日 【A STORE WAJIMA】 月～日 【器の実カフェ】 不定休 【PORTULACEA】 不定休 【ゴーゴーカレー輪島店】 月～木、土、日 (SNSで確認可)
輪島市	神社仏閣	大本山總持寺祖院	月～日
輪島市	仮設商店街	輪島市仮設商店街(禅の里広場等)	店舗により異なる
輪島市	観光施設	輪島塗会館	※大雨の影響により当面の間、休業 月～金(祝日休業)
輪島市	観光施設	輪島漆芸美術館	月～日(年末休業)
輪島市	観光施設	輪島工房長屋	月～日
珠洲市	道の駅	道の駅すず塩田村	休業中
珠洲市	宿泊施設	珠洲温泉のとじ荘	素泊まりのみのご宿泊に対応
珠洲市	宿泊施設	奥能登珠洲ビーチホテル	休業中
珠洲市	道の駅	道の駅すずなり	火、水、木、土、日
珠洲市	道の駅	道の駅狼煙	金、土、日
珠洲市	観光施設	青の洞窟	月～日
珠洲市	仮設商店街	珠洲市仮設商店街(道の駅すずなり)	店舗により異なる
珠洲市	観光施設	珠洲市陶芸センター	体験休止中
珠洲市	観光施設	珠洲焼資料館	休業中
珠洲市	観光施設	珠洲焼館	休業中
羽咋市	道の駅	能登千里浜レストハウス	月～日(年中無休)
羽咋市	神社仏閣	妙成寺	月～日(年中無休)
羽咋市	道の駅	道の駅のと千里浜	月～日(第2・第4水曜日休業、祝日除く)
羽咋市	神社仏閣	気多大社	年中無休
羽咋市	観光施設	コスモアイル羽咋	月、水～日(火曜日が祝日の場合は翌平日)
かほく市	道の駅	道の駅高松	月～日
津幡町	神社仏閣	俱利伽羅不動寺(山頂本堂)	月～日
津幡町	道の駅	道の駅 俱利伽羅塾	月～日
津幡町	神社仏閣	俱利伽羅不動寺(西之坊鳳凰殿)	月～日
内灘町	観光施設	内灘町サイクリングターミナル	月～日
内灘町	道の駅	道の駅 内灘サンセットパーク	月～日
志賀町	道の駅	道の駅ころも柿の里しか	月、水～日(年末年始休業)
志賀町	宿泊施設	いこいの村能登半島	月～日
志賀町	宿泊施設	シーサイドヴィラ渤海	月～日
志賀町	道の駅	道の駅とぎ海街道	月～水、金～土
志賀町	観光施設	巖門	月～日
志賀町	観光施設	能登金剛遊覧船	月～日
志賀町	観光施設	世界一長いベンチ	月～日
志賀町	観光施設	平家	不定休
志賀町	仮設商店街	志賀町仮設商店街(道の駅とぎ海街道)	店舗により異なる
志賀町	仮設商店街	志賀町仮設商店街(シーサイドヴィラ渤海・夕陽が丘公園)	店舗により異なる
宝達志水町	観光施設	山の龍宮城	4月中旬～11月下旬(積雪量により前後します)

市町名	施設種別	施設名称	営業日
七尾市	道の駅	道の駅能登食祭市場	月、水、木、金、土、日
七尾市	道の駅	道の駅のとじま	休業中
七尾市	公共交通	のと鉄道	—
七尾市	観光施設	能登島ガラス工房	月～日(年末年始休業)
七尾市	観光施設	のとじま水族館	月～日
七尾市	観光施設	のと里山里海ミュージアム	月、水～日(年末年始休業)
七尾市	道の駅	道の駅 いおり	月～水、金～日(年末年始休業)
七尾市	仮設商店街	七尾市仮設商店街(一本杉通り)	店舗により異なる
七尾市	観光施設	花嫁のれん館	月～日(年末年始休業)
七尾市	観光施設	能登島ガラス美術館	月～日(第3火曜日(祝日の場合、その翌日が休業) 展示替え期間・館内整備期間、年末年始休業
七尾市	道の駅	道の駅 なかじまロマン峠	火～日(月曜日、1/1休業)
輪島市	道の駅	道の駅のと里山空港	月～日(年中無休)
輪島市	観光施設	能登空港仮設飲食店街NOTOMORI	店舗によって異なる 詳細はHPから
輪島市	道の駅	道の駅 赤神	月、水～日(火曜日休業)
輪島市	道の駅	道の駅 千枚田ポケットパーク	休業中
輪島市	道の駅	道の駅 輪島(ふらっと訪夢)	※大雨の影響により、店舗によって営業状況に変更がある場合があります。 【わじま観光案内センター】 月～日 【A STORE WAJIMA】 月～日 【器の実カフェ】 不定休 【PORTULACEA】 不定休 【ゴーゴーカレー輪島店】 月～木、土、日 (SNSで確認可)
輪島市	神社仏閣	大本山總持寺祖院	月～日
輪島市	仮設商店街	輪島市仮設商店街(禅の里広場等)	店舗により異なる

宝達志水町	観光施設	千里浜なぎさドライブウェイ	現在の通行状況は以下からお調べください。 石川みち情報ネット
宝達志水町	観光施設	今浜海水浴場	7月中旬～8月下旬
中能登町	道の駅	道の駅織姫の里なかのと	【産直館織姫市場】 月～日(1/1.2・第1.3木曜日(1～3月)休業) 【フードコート織姫ダイニング】 月～日(1/1.2・テナント交替時休業) 【ドッグラン】 月～日(1/1.2・第1.3木曜日(1～3月)休業)
中能登町	観光施設	石動山	—
中能登町	観光施設	雨の宮古墳群	閉鎖中
中能登町	観光施設	不動滝	—
中能登町	観光施設	能登上布会館	火～日 (月曜祝日の場合は翌日休業、年末年始休業)
穴水町	観光施設	能登フイン	月～金
穴水町	道の駅	道の駅 あなみず	月～日
穴水町	観光施設	ボラ待ちやぐら	月～日
穴水町	仮設商店街	あなみずスマイルマルシェ	店舗により異なる
能登町	宿泊施設	セミナーハウスやまびこ	月～日
能登町	宿泊施設	ラブロ恋路	月～日
能登町	宿泊施設	真脇ポーレポーレ	月～日
能登町	宿泊施設	能登うしつ荘	月～日
能登町	宿泊施設	能登やなぎだ荘	休業中
能登町	観光施設	イカの駅つくモール	月、水～日
能登町	観光施設	柳田植物公園	月～水、金～土
能登町	道の駅	道の駅 桜峠	火～日

